

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月8日

事業所名 モモの家

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1	個別指導の際は一部屋を区切って使用している。	利用人数が多いときは、活動によって狭く感じることもある。十分なスペースとは言えない時もある。
	2 職員の配置数は適切である	3	2		法令で必要とされる数を配置しているが、増員があればなお良い。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	3	事業所を含む館内はバリアフリーとなっている。室内の間取りや構造の狭さがあるが、安全面の確保や快適にご利用いただくための配慮を行っている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	1	特性と活動内容を考慮し、できるだけ動きやすい空間を設定したり、清潔には注意をしている。	活動スペースと収納スペースがもう少し区分されればと感じる。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	毎日事業終了後にミーティングを行い、支援内容の見直しを行っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0		今回の結果を踏まえ、今後業務の見直しや改善に繋げたい。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0		今回の保護者の方へのアンケート結果をもとに、業務改善に向けたミーティングを行う予定。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	5		現在は第三者による外部評価は行っていない。今後の実施を検討する予定。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	研修情報を職員に通知して参加を推奨し、全職員が何らかの研修を受けられるように努めている。また、研修後は資料や内容の共有を行い、業務に還元できるようにしている。	
適切な	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	定期的にあセスメントやモニタリングを行い、全職員で話し合いながら計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	ポーターズ早期教育プログラムを使用。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0	利用する子どもの状態に合わせて、支援に必要な内容を設定している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	支援計画書に沿った支援を行っている。	
14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	起案に対して職員間で検討を行っている。		

支援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	起案に対して職員間で検討を行っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	0	発達に応じた支援計画を作成している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	支援開始前、支援終了後いずれも職員間で情報共有や支援内容についてのミーティングを実施している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	支援開始前、支援終了後いずれも職員間で情報共有や支援内容についてのミーティングを実施している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	日々の支援内容について記録をとり職員間で共有することで、支援内容の検討に役立っている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0	半年ごとにモニタリングと支援計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	主に児童発達支援管理責任者が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	必要に応じた連携がとれている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	0	現在は医療的ケアが必要な子どもはないが、入園となった場合は保護者の了解を得て連携をとっていく。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	0	現在は医療的ケアが必要な子どもはないが、入園となった場合は保護者の了解を得て連携をとっていく。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	「すくすくネットワーク研修会」という市内の保育所・専門機関との連携の中で、保護者の方の了解を得て、支援内容の共有を図っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0	就学にあたり、「就学サポートファイル作成会議」等で保護者・学校・幼稚園や保育園と連携し、事業所での支援内容や取り組みについて伝えるとともに情報共有をしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	必要な事例について助言を受けるなど連携をとっている。	今後、他の事業所での研修の機会を設けていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5		日々の療育時間の中では外部施設との交流は難しく、実施はできていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	0	業務を調整し、積極的に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	必要に応じて保護者の方と子どもの様子や課題などを話し、共通理解に努めている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	2	子どもとの関わり方について具体的に伝えたり、必要に応じて支援を行っている。	プログラム化されたものは実施していない。今後、職員の研修の機会を作るなどして、支援体制を強化するよう努めたい。

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	契約時に説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	ガイドラインに基づき計画を作成し、保護者からの同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	随時面談や相談を受けられる体制があり、相談があった場合は助言や適切な支援を行えるように努めている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	今年度より保護者学習会を開催しており、次年度も開催する予定である。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	苦情に対する対応の体制は整備している。相談や申し入れについても、職員間で共有し速やかな対応に努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	毎月おたよりを発行し、活動内容・行事等について周知している。電話だけでなく、勤務時間外はメールでも連絡を受け付ける体制をとっている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	ケースファイルは施錠できる書庫に保管している。パソコン端末はパスワード設定で管理している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	1	子どもとの意思疎通には状況に応じて工夫を行っている。	保護者との意思疎通では必要に応じて書面を通じて行うが、現在はそれ以上の準備体制は整えていない。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5		現在は事業所内部の行事を行うのみとなっている。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	1	4	職員向けには必要に応じて周知をしている。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	2		定期的(年2回)に複数事業所合同の避難訓練を実施しているが、訓練時間が療育時間と異なるため、希望者のみの参加としている。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	通園開始時に保護者の方から健康に関する配慮事項について聞き取り、情報を把握するよう努めている。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	通園開始時に給食提供に関して食物アレルギーの有無を確認し、必要に応じて法人の管理栄養士に情報提供したり、保護者と栄養士との面談を行ったりするなど、安全に食事できるよう努めている。	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	事例集の作成などマニュアル化したものはない。常に職員で情報を共有し、対策を検討できるよう努めている。	

46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2	研修の機会は確保できていないが、事業所の支援で虐待につながるような事例はなく、職員間でも子どもへの対応の仕方など話し合っている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	0	5	支援の中で身体拘束を行う状況は特にない。	